

# 平成17年度横芝町農作業別標準賃金

作業内容	賃金 (円)	摘 要
畑 作 業 一 般	7,000	1日当たり賃金 実労働時間は8時間 賄評価額は含まない
水田耕起 (トラクター)	5,500	10 a 当たり オペレーター付作業賃金
水田代かき (トラクター)	6,100	10 a 当たり、仕上げまで オペレーター付作業賃金 (ドライブハロー使用の場合)
育 苗	780	1箱当たり、稚苗 (硬化苗)、種もみ代含む
機 械 田 植	6,500	10 a 当たり、苗費は含まない
コ ン バ イ ン 刈 取	17,500	10 a 当たり 補助者賃金、刎運搬費含む
乾 燥 か ら 調 整	2,500	60kg 当たり、水分25%を基準
刈 取 か ら 調 整	37,000	10 a 当たり
も み す り	600	60kg 当たり
畦 塗 り	30	1 m 当たり

※この賃金は、30a区画のほ場を想定して設定した標準賃金ですので、ほ場条件等により当事者間において適宜調整してください。

※問い合わせ先 農業委員会 ☎82-8810

## 文 芸

### 俳 句

横芝俳句栗江会

春一番調印式の慶事から  
城山の梅花を守る里のひと

桑名 大行

水温み用水に水戻りくる

豆腐屋は「田楽あり」と時期知らず

長谷川正子

味噌田楽君微笑むやもう一献

両町の隔てし川や水温む

今関満喜子

寒き夜は田楽の味身にしみる

地に落ちて土に消え行く春の雪

福田 幸子

田楽の串はいつでも父の手に

低空の機影写して水温む

藤代 ゆう

探梅やシルバーカーと押しほる

春うらら緑でお茶事婆々の午後

若梅あやめ

田楽や茶屋の娘の品の良さ

ゆるゆると雲を映して水温む

選者 玉虫 栗扇

ひこばえ俳句会 (互選句)

丸き葉にまあるく積もる春の雪

病院のドア押し開ける春一番

浅野 茂子

上総野の芽吹き風にであひけり

池田 逸子

伊藤 敬子

畑打ちに土黒々と続きけり

向後 寛

古い仲間十七文字の春捨り

小松 藤男

城跡の土塁に独り野蒜引く

佐瀬 輝夫

北帰行時満つ知るや鶴の群れ

宍倉 道子

山の日にほくろの花芽光り合ふ

布施 和代

老人会友にさそわれ春の道

若梅あやめ

海風きて霞の中の海はたる

渡部 和秋

### 短 歌

これしきの風にも自転車漕ぎがたし

老いは確かに吾身にせまる

萩原 信一

茶毘に付す前の吾夫に逢ひたしと

言ひてくれたる伊藤さん逝く

吉岡 信子

夜半に入り水雨激しくなりさしか

北の雨戸を打つ音高し

秋葉 悦子

曇り日の庭木の枝は揺れぬまま

風情わびしく夕べとなりぬ

佐瀬 初音

卓の上に一輪活けし山茶花の

うすくれなゐに心潤ふ

永藤 激

成田へと近づく飛行機ハウスの中を

一瞬暗くし過ぎてゆきたり

宇井 ちい

温み来しきさざらぎの水に誘はれ

土手に登りて深呼吸する

八角 三枝

高だかど雪の積りし草津町  
軒のつららが光りて眩し

池田 春江

三人の幼き孫の風邪も癒え

明日は歌会とふと気付きたり

芹川 初子

猪の皮干されたる金砂の郷

「立つ小屋」と呼ぶ狩人らの住む

押尾 輝子

夜の更けに買物ありて来し町に

上弦の月澄みて静けし

長谷川正子

総の空黄に濁らせし春一番

ひと日吹きあて夕べ静もる

鈴木 やす

海へ没る陽を眺めあつ犬吠の

丘を吹きゆく風に打たれて

西山満里子

来し方をいかに過せし人ならん

地下道にカップの酒を呑みあつ

上総 晴子

道さるる日の在る事など思はざりき

守られ過ぎぬ五十余年を

選者 斎藤つね子

